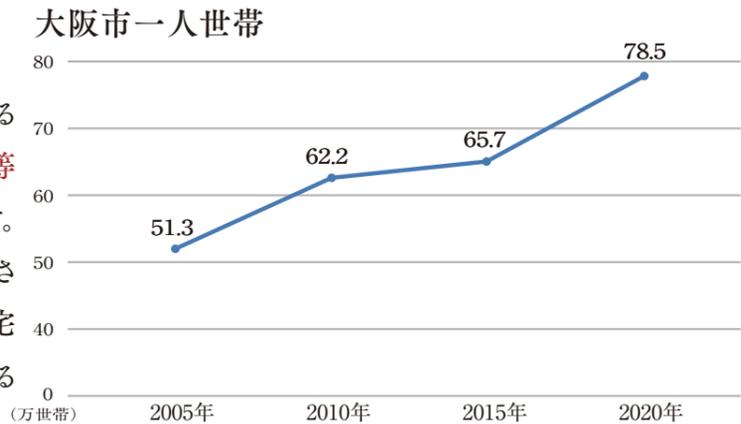


コンパクトレジデンスの需要を考える

コンパクトレジデンスの購入を考慮した場合、周辺地域が持つ立地特性は重要な要素となっています。「ソルティア京橋リバーフロント」は、より有効的に賃貸運用を考えている方にとっても魅力的な街に誕生する住まいです。

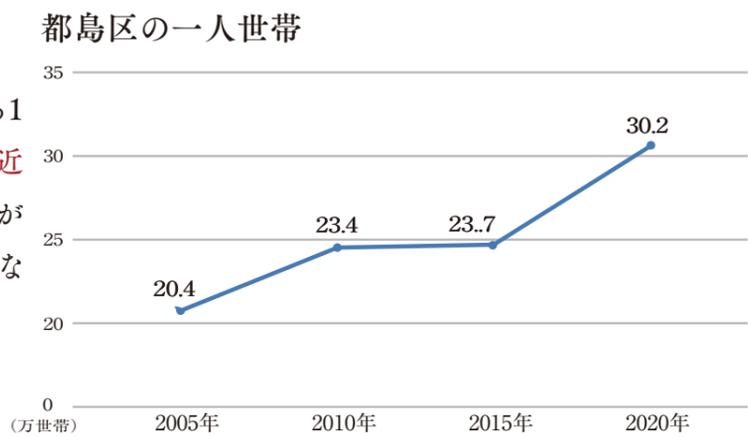
■ 大阪市の一人世帯が増加

大阪市の一人世帯の割合は、53%超と半数を超える状況に。残りが2人世帯、3人以上の世帯がほぼ同等で、圧倒的に一人世帯のボリュームが占めています。また、一人世帯の増加傾向を見ても著しくこの傾向はさらに進むかもしれません。当然、大阪市内における住宅ニーズも変化を余儀なくされ、増加する需要に対する供給や質の向上が求められると言えるでしょう。



■ 増加する都島区の1人世帯

都島区は、コンパクトレジデンスの主要ユーザーである1人世帯が2005年～2020年までの15年間で約1.5倍近く増加している街。将来的にもこの状況が継続することが予想できて、今後も高い需要が見込めることから、住まなくなった後に賃貸経営をという方も期待できます。



■ 都島区は半数以上が一人世帯

2020年の統計で都島区の1人世帯は30,272となり、総世帯の半分以上が1人世帯という状況に。今後もコンパクトレジデンスニーズの高まりが想定できます。

■ 都島区のコンパクトレジデンス供給数

2000年以降、大阪市内における主タイプが1LDKのコンパクトレジデンスの供給87物件*のうち、都島区においてはわずか1物件。主要ユーザーである1人世帯の増加傾向に対しまだまだ供給が少ないため、住まなくなり売却する際の需要にも期待が持てます。

※MRC調べ



| まとめ |

大阪市都島区は、入居者となる1人世帯が大幅な増加傾向にある上に、市内中心部に比べてコンパクトレジデンスの供給がまだまだ少ないエリアです。

その結果、中古流通物件や設備・セキュリティのしっかりした分譲賃貸も少ないと言えます。

自身が住まなくなった際に、売却や賃貸経営にとっても期待が持てるポジションではないでしょうか。

